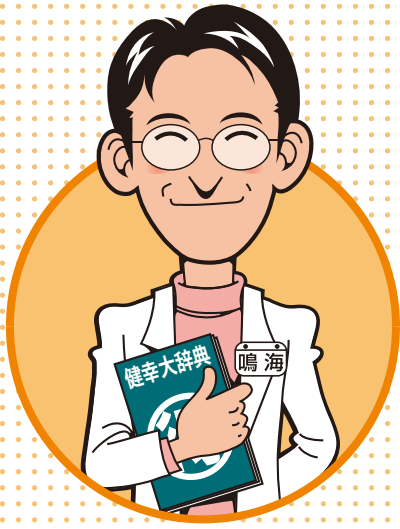


健幸タイム



「キは、〇〇なり」

「キは、〇〇なり」
さて、あなたは〇〇に何を入れますか？

「日にち薬」という考え方

さて、突然ですが、問題です。

「ホナー」といえば「龍角散」ですが、「トキは」といえば、何でしょう？

「トキは、金なり」を思い浮かべたあなた！

僕とおなじです(笑)

英語だと「タイム・イズ・マネー」。

だから「なんか、ヒマだなー」という人は、ホントはとっても贅沢なことなんです。

ほかに「トキは、クスリなり」という考え方もあって、関西方面では「日にち薬」と言われているそうよ。

「日にち薬」とは「日数を重ねてじっと養生していれば病気やけがが自然によくなくなる」と(「大阪ことば事典」とか、「どんな悲しみや苦しきも、月日を経ること、こころが自然にラクになっていく」という)からだどこころに効くトキ(時間)という薬のいよ。

身近な人を亡くし、とても悲しまれている方に対して、瀬戸内寂聴さんが

「その悲しみを治す薬はありません。けれども歳月が薬になる。時間がこころの傷を癒やしてくれる。それを『日にち薬』と言います」

「あおぞら説法」でお話されているとおりなのであります。

すべては諸行無常

仏教で「ものごとは、すべてうつり変わっていく」ことを「諸行無常」というので、「うつり変わっていくすべてのものごと」のなかに「苦しみ」や「悲しみ」、そして、それらを癒してくれる「トキ(時間)」の概念も含まれているということなんですよ。

だから、いま、なにか辛いことや苦しいこと、悲しいことがあったとしても「トキ(時間)」というくすり(日にち薬)が自然に癒してくれるというわけです。

この「日にち薬」を、ちよいと「未来」へ処方してみると、たとえば、いま「もー、穴があったらほいりたいー」と、思うことがあったとしても「とりかえしがつかないようなことをしてかしちゃったー」と、思うことがあったとしても、「諸行無常」(ものごとは、すべてうつり変わっていく)という自然界の摂理のなかでは、いつか、すべて「自然に癒されてしまっ」ことになります。

そもそも、「人の噂も七十五日」っていつくらいに「トキ」は忘れるもの「だし、50年も経ったら、お互いに地球生活を卒業しているかもしれない(笑)」

松尾芭蕉さんが「月日は百代の過客にして」(月日は永遠の旅人であり過ぎてはやって来る年もまた、旅人である)と「奥の細道」で詠んで

いるとおり、すべてのできごとには「トキ」という流れのなかで、あらわれては消えていく。あつてないようなもの「トキ」になるでしよう。

芭蕉さんにとっての「トキ」は「永遠の旅人」。佐渡島の人にとっての「トキ」は「身近な天然記念物」。

ケンシロウにとっては「お兄さん」。ラオウにとっては「弟」ということにもなるでしよう。

〈本日のまとめ〉

「トキ」は「くすり」であり「お金」であり「永遠の旅人」であり「天然記念物」であり「兄」であり「弟」である。

地球生活を快適に過ごすうえで、とてもたいせつなことです。トキトキ想い出してください。

鳴海周平プロフィール



1971年北海道生まれ。心身の波動を高める製品の開発・普及をおこなう(株)エヌ・ピュア代表。健幸エッセイスト、ヒーラーとしても、ラジオ番組や講演、ブログ、著作などを通じて「こころとからだの健幸情報」を発信している。著書に『医者いらずになる「1分間健康法」(帯津良一氏との共著)』『[小食・不食・快食]の時代へ』(はせくらみゆき氏との共著)(ここまでワニ・プラス刊)『1分間ヒーリング』(徳間書店刊)などがある。



LINE

友達登録
こちらから

アマーバブログ

<https://ameblo.jp/npure/>

エヌ・ピュア公式サイト

<https://npure.co.jp>